

若手研究者育成セミナーに参加して

鳥取大学大学院医学系研究科 博士前期課程 1年

神経生物学分野 太等恵里

2014年9月29日より行われた神経化学若手研究者育成セミナーは今年で第7回目となります。今回、私は若手育成セミナーに始めて参加させていただきました。本セミナーへの参加経験は私にとって大変有意義な時間であったと感じています。研究者というにはスタートラインに立って間もない未熟な私ではありますが、参加した経験を皆様にお伝えしたいと思います。

セミナー内で行われたグループディスカッションは7グループに分かれて行われました。それぞれ最前線で研究をなさっている先生方と、講義やグループディスカッションを通して研究者としてのあり方や最先端の研究を体験できました。知識に関するお話を一方的に聴くのではなく、ディスカッション形式で発言しやすい環境でしたが、初めての環境で緊張のあまり先生方の呼びかけに対して積極的に返答ができなかったことが今となっては心残りです。私は尾藤晴彦先生と橋本亮太先生が担当なさった『分子から認知へ』というテーマの講義に参加しました。尾藤先生の講義では研究者としてのあり方に関する内容でした。「実験を失敗して思うような結果を得ることができないことさえも楽しみだ。」と話す先生の姿をみて、実験の結果で一喜一憂する自分の未熟さを感じるとともに、尾藤先生のような楽しみを感じるほどに研究に夢中になるという目標を持つことができました。橋本先生の講義は、ビデオを含めた治療抵抗性統合失調症患者の治療や、統合失調症の中間表現型と遺伝子を結びつけた分子病態の研究に関する内容でした。基礎重視ではなく臨床に直結できる研究の重要性を考えさせられるものでした。自分の研究も基礎の範囲にとどまらず臨床につなげて有用性を高めていきたいと感じ、今後どのような実験系を組むべきか改めて考え直す機会になりました。先生方の学生のレスポンスを見ながら講義をなさる姿は自分の研究や研究に対する姿勢を再考させられるもので、大変為になるものでした。

グループディスカッション後に旅館で行われるフリーディスカッションではグループの先生や他の学生の方々と近い距離で交流を深め、グループの垣根を越えて他の参加者や先生方とも交流することができます。振り返ると、このフリーディスカッションこそが若手育成セミナーの要所だったのかなと感じています。私は、最前線で研究をなさ

っている先生方や、チューターの方々が積まれてきた色々な経験をお話いただき、多くのアドバイスをお聞きすることで自分自身の視野を広めることができました。また、女性が研究を続ける上で直面する悩み等のプライベートに関するお話もすることができ、将来を考えるヒントも得ることもできました。他大学の神経化学分野の研究を行う学生の方々とお話することは、自分の研究室だけでなく外部の研究室を知るまたとない機会です。普段は所属研究室内の狭い世界で研究生活を過ごしていますが、外部の環境を知ることが自分自身の研究生活を見つめ直すきっかけになります。一口に学生といっても、何年も研究をされている方、臨床経験を積まれている方、すでに将来が決まっている方など様々な経験を積まれた方がいます。ともに神経化学を勉強してはいますが、違う境遇の異なった考え方を持つ学生の方々とお話ができることも私にとって価値ある経験の1つでした。

様々なことに当てはまるかもしれませんが、何かを極めようとするのならば外の世界に輪を広げることは最も重要だと考えています。外部を知り、たくさんの方の経験や考えを聴く事は、自分のあり方を改め、悩みや問題解決のヒントを得る好機になります。私にとってこのセミナーが外部を知るよい機会でした。学会に参加するだけではなかなか広げることが出来ない人脈を広げる契機になりました。たくさんの方とお話することができ、様々な経験をつまれている学生の方々と交流を持てた時間は何とも意義のある時間であったと感じています。今回の本セミナーへの参加を皮切りにより一層勉強に励み、外部に視野を向けていこうと考えています。神経化学分野に足を踏み入れたばかりの私ではありますが、若手育成セミナーへ参加した経験を生かして今後の研究に勤しんでまいります。

最後になりますが、若手育成セミナーで多くのことをご教授くださいました皆様、セミナーを開催するにあたり運営に携わった方々、このレポートを通して若手育成セミナーで得た経験を発表する機会を設けていただいた日本神経化学会の皆様に心より感謝申し上げます。